

涌谷町

①



②

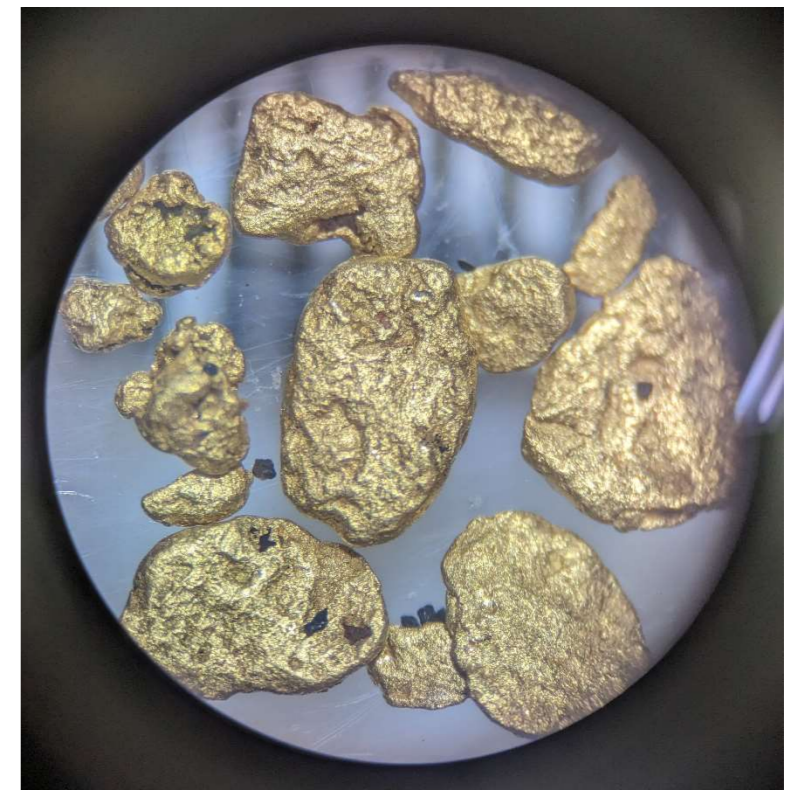


③



砂金採りの道具

涌谷町は日本で初めて金が採れた地で、それは天平 21 年（749）の出来事でした。それから 1,270 年以上過ぎた今でも、^{ののだけやま} 篔岳山の川や沢では砂のように細かい砂金が採れます。なぜ川や沢なのかというと、砂金を含む山の土が雨によって洗い流された結果、比重が重い砂金が川底に溜まるからです。【大きいもので約3ミリ→】



そのため、町内に残っている金を採る道具には、水はけが良いように透かしがあり、砂利をより分けた「カッチャ」（写真②）、砂利をふるった「^{かな}金ザル」（写真①）、最終的に砂利や砂から砂金をより分けた「^{いた}ゆり板」（写真③）などがあります。



昭和の初め頃までは、こういう道具を使って、^{のうかんき} 農閑期などに農家の副業として砂金を採っていたという話も伝わっています。

今、これらの道具はほとんど使われなくなりましたが、砂金採りの方法は脈々と受け継がれています。